

時間外に受診した急性心筋梗塞患者は死亡率が高い

急性心筋梗塞患者の時間外（週末および夜間）の受診と死亡または病院到着からバルーン拡張までの時間との関係について検討した。

2013年4月までの医学電子データベースを検索し、急性心筋梗塞患者の受診時間と死亡または病院到着からバルーン拡張までの時間との関係を検討した研究についてメタ分析を行った。検索の結果、48件の研究が対象となった（患者数189万6,859人）。そのうち、36件の研究で189万2,424人の死亡転帰、30件の研究でST上昇型心筋梗塞患者7万534人の病院到着からバルーン拡張までの時間が報告されていた。分析の結果、急性心筋梗塞患者の時間外受診は短期死亡率の上昇と関係していた（オッズ比1.06）。時間外に受診したST上昇型心筋梗塞患者では90分以内に経皮的冠動脈インターベンションが施行される割合が低い傾向がみられ（オッズ比0.40）、病院到着からバルーン拡張までの時間が平均14.8分長かった。診療時間内に受診した患者と時間外に受診した患者の死亡率の差は、近年大きくなっていた。

したがって、急性心筋梗塞の患者について、時間外に受診した患者の死亡率が高く、ST上昇型心筋梗塞患者では病院到着からバルーン拡張までの時間が長くなることが示された。

出典：British Medical Journal. 2014; 348: f7393